

五つの軸による心理学研究法空間の描出

佐々木, 玲仁
九州大学大学院

<https://hdl.handle.net/2324/7396333>

出版情報 : 2018-11
バージョン :
権利関係 :



五つの軸による心理学研究法空間の描出

佐々木玲仁（九州大学大学院）

問題

- 近年の様々な種類の「非・仮説検証」「非・RCT」型研究法の議論
 - 臨床事例研究（山川，2015），一人称研究（諏訪，2016），アブダクション（米森，2007）[Peirce, Eco]，混合研究法（Creswell et. al., 2010）など
 - 個々の研究方法論間の「独立性」＝「不連続性」
 - それぞれの異なる心理学分野での研究の蓄積を十分に生かせていない
 - 他の分野の研究を低く評価……………**方法論の共通性がなく**互いに内容を深く知らずに批判？
 - 「質的」心理学の定着による安定化（≒陳腐化？）
 - 「質的か量的か」という粗雑な議論
 - 質的研究＝仮説生成，量的研究＝仮説検証と固定的にとらえてしまってよいのか
 - 質的研究の質の担保**の問題
- 質的研究に限らず，心理学研究法全体を視野に入れた上で研究方法論を把握し，議論する必要性
すべての心理学研究法を記述可能な**共通フォーマット**の必要性

目的

心理学研究における**研究法全体を記述できる表記方法**を開発すること。
また，具体的な研究論文をその表記方法を用いて記述すること。

方法

- 問題に挙げた先行研究などから「対象」「論理」「仮説の扱い」「人称性」「データの種別」の五つの軸を用いて記述法を仮設
 - 実際の研究を仮設した記述法で記述
 - より論文の特徴を表現できるように記述法を修正
- 2と3を循環的に行う

論理

dD：帰納
iD：演繹
aD：アブダクション

結果

対象

C：臨床
N：非臨床

dD

N

Ht

2

データ種別

Qt：量的
Qm：混合
Ql：質的

仮説の扱い

Ht：仮説検証
Hg：仮説生成
Hn：仮説なし

人称性

1：一人称
2：二人称
3：三人称
0：文献，理論

質的心理学研究

dD	dD	dD	iD
N Ht Ql	N Hg Ql	N Hg Ql	N Hg Ql
2	0	3	0
中井(2017)	勝田(2017)	古市(2017)	木下(2017)

心理臨床学研究

dD	dD	dD	dD
C Ht Ql	C Ht Qm	N Hg Ql	C Ht Ql
2	2	3	2
森平(2017)	堀田ら(2017)	浅原ら(2017)	小山(2017)

考察

- 質的心理学研究における人称性の多様性，仮説生成の多さ仮説検証型研究や演繹型の可能性
 - 心理臨床学研究における対象，データ種別の多様性，仮説検証の多さの可能性
 - 両誌共通してのアブダクションの少なさ，帰納的研究の多さ
 - 対・人称性・データの種別の明瞭性，論理・仮説の扱いの不明瞭性
- 一定の水準での研究法の記述が可能

課題：記述対象となる研究の量を増やす
対象となるジャーナルの種類を増やす

文献

浅原知恵・渡邊美加・高梨利恵子・橋本貴裕（2017）心理臨床の目指すところ，心理臨床学研究，35(5)，479-490
久レスフェル，J.W.，プラノ クラーク，V.L.（2017）人間科学のための混合研究法 質的・量的のアプローチをつなぐ研究デザイン（大谷順子 訳），北大路書房（Creswell, J.W, Plano Clark,V.L.(2007) Designing and conducting mixed methods research, Sage Publishing）
古市直樹（2017）小集団学習中にジョイント・アテンションはどのように機能しているか—中学校社会科の授業場面を事例として，質的心理学研究，16，174-190
堀田亮・西尾彰泰・山本真由美（2017）言語面接が困難なほど対人緊張が強い社会不安障害学生へ自律訓練法を適用し効果を得た一例，心理臨床学研究，35(5)，468-478
勝田聡（2017）保護観察中の性犯罪者の犯罪行動のプロセス，質的心理学研究，16，135-152
木下寛子（2017）養育院が言葉になる時—小学校の日々から始まる養育院の解釈学的現象学，質的心理学研究，16，191-210
小山智朗（2017）ある母親の《私》の生成プロセス，心理臨床学研究，35(5)，491-502
森平雄次（2017）認知と行動へのアプローチにおける魂の視点，心理臨床学研究，35(5)，457-467
中井好男（2017）誇り中国人のライフストーリーから見る自己アイデンティティの交渉と構築—なぜ永住権を目指して働き続けるのか，質的心理学研究，16，116-134
諏訪正樹（2016）「こつ」と「スランプ」の研究 身体知の認知科学，講談社
山川裕樹（2015）河合隼雄「事例研究の意義と問題点」の真意とその引用：事例研究法の意義再考のために，心理臨床学研究 32(6)，705-710
米森裕二（2007）アブダクション 仮説と発見の論理，勁草書店